

名古屋いのちの電話十周年を終えて

理事長 相馬 信夫



1985年7月、名古屋いのちの電話が、はじめて相談電話の受話器を取り上げてから十年余りの月日が経ちました。十年はほんやり生きてみると、またたく間に過ぎてしまいますが、十年間一日も休まず、相談電話を受けて来たと言うことは、重い意味のある、大きな事だと思いません。相談員の方々、事務の人々、指導の先生、又陰になってこの組織を支えて下さった後援会の皆様、理事の方々の誠意と忍耐の賜物であると驚きと感謝の念を禁じることが出来ません。

人生の複雑な事情の中で、自殺への誘惑からのがれるための手がかりになることはたしかにあることです。私は小学生の頃熱海に近い、錦が浦という断崖の上に「一寸待て」という立札が立っていたのを見たことを思い出します。錦が浦は当時自殺の名所として有名だったので、もう一度考えなおす機会になるために立てられたのだと思いますが、潮風に向かって立っている立札の、重々しい姿が今もはっきりと思い出されます。

いのちの電話はこの立札と同じ使命を持っており、電話器のある所では何時でもどこでも手に取ることの出来る利点がありますが、断崖の上の立札のような、アピールの力、呼びかけの力にかけているように思います。

十年間に数回ステッカーを公衆電話ボックス等に貼ったことは有りますが、今後にかかよいアイデアで恒常的なアピールの方法を考えたいと思っています。全国的なよい方法はないでしょうか。

いのちの電話は自殺予防だけではなく、そこまで行かなくても、人生の道に立ちふさがる、色々な重い相談も対象として持っています。病気、性問題、人間関係、生活の問題等、この相談は単なるコミュニケーション付合いではなく、

問題とその解決のための話し合いです。事柄の重要性によっては、人生の主要問題、生死に関するところにまで及びます。

躁ウツ症の場合には発作的に自殺の誘惑に引かれることがあり、又絶望によって自殺する事もあります。

相手を信頼しながらゆっくり話し合うのがいのちの電話の場合をはじめ、すべての相談の基本であり、人生の危機に当たって解決に向かう第一歩であると思います。私の関わっているアルコール依存症からの回復を通して、社会復帰に向かう過程の基本は信頼と友情の中での指導者とクライアント、又、クライアント同志の話し合いを通して生き方の根本を変える半年から二年間程度の話し合いにあります。

落ちついたゆっくりした話し合いの中で、友情と信頼をはぐくみ、自分の考え方を整理する事は、社会生活の中で各自が自分の生きる道を発見して行くために非常に大切なことであると思います。

現代の教育の中でこのことは忘れられていることの一つであると思います。

相談上手な人は、多くの人、特に仲間の知識や体験、意見を自分のものとして利用、活用することが出来、豊かな生活、或いは活動に生かすことが出来るのです。

いのちの電話や色々な相談電話は、特殊な事情にある人を対象としていますが、相談と言うことは普通の社会生活の中で広い有用な使命があることに気づき、その面からいのちの電話について考えて見る必要があるのではないかと近頃考えています。

ニューヨークに行った。と言っても、ほんの5～6日で小学校3校と中学校を2校ばかり見てきただけである。したがって、住んだことのある人にとっては珍しくもないことと思うが。出掛けた本当の目的はスクール・カウンセラーの養成と活動について視察するためである。まず街に子どもの姿がない。イースターの日曜日には、どっと親子連れがくり出していたのと思ったが、ニューヨークに限らずアメリカでは、子どもはスクールバスで通うことになっていて、ほんの数%ぐらいの人が特別に許可を得て親が送り迎えをするとのことであった。通学路が危険だからとのこと。おなじみの黄色いごついバスが街の中を右往左往して、これが渋滞に拍車をかけているように感じた。

大体において、学校には重い鉄の扉があって、ガードマンが来訪者名簿に名前を記入するまで中へ入れてくれない仕組み。外部からの侵入者が恐いとのこと。道理で道路側のガラスには、網ががっちりとはまっていた。しかし、子どもたちは自由で行儀が良く明るい表情をしていた。学年は日本と違って、小1～小4までが小学校で小5～中2までぐらいが中学校。そして高校は16才まで義務なので全員入学できるが、16才になった時にやめたい子はやめてもいいとのことであった。したがって、日本のような高校入試のための猛勉強というのではないらしい。この学年の区切も州によってまちまちで、しかも今年からは5年生から中学へ入ることになったなどかなりフレキシブルなのに驚いた。

日本人の子どもも沢山入学していた。昨年行ったロスでは、ニューヨークの倍ぐらい学校訪問をしたが、日本人の先生は多勢おられたものの生徒はいなかった。どこへ行ったのだろうと思ったものだった。多分私立の学校か日本人学校に通っているであろうと推測した。しかし、ニューヨーク郊外のクイーンズ地区では全校400余人の在校生のうち21名の日本の子どもがいて、全

員が出てきて挨拶をしてくれた。5～6年も滞在してもうすぐ帰国予定の中学生在が案内役を勤めてくれたが、その鮮やかさに感心した。

出掛ける時、ニューヨークでは銃弾が飛んでくるなどと脅されたが、街は比較的落ちついて清潔に見えた。ロスの方が到る所にホームレスがいたり、ハリウッド地区では空家が多くゴーストタウンのようだったりして、対照的な印象であった。

見たり聞いたり ニューヨークの学校

生田純子



さて学校であるが、何と言っても日本と一番違うところは教員の採用の仕方であろう。ある小学校で校長が12月に突然退職した（通常の区切りは6月）。6月までは副校長が代行したが、一方P.T.A.が立ちあがり校長を選任する委員会を組織したのである。その委員も、立候補者が会員の前で自分をアピールして選考を受ける。こうして決まった委員が全国公募して、300人近くの応募者から書類選考で20～30名に絞り面接する。もちろん、学校の教員もそれに加わるのであるが、何と計200時間ぐらいを費したそうである。こうして選ばれた校長は、今度は自分の主張に合う教員を他から自分のもとへ転勤させるといふ。ふつう、日本のように勤務年数による異動はなく、本人が希望し周囲も認めればいつまでも同一校に勤務することも可能であるといふ。もともと、教員自

身も、休日や夜間には大学院に通って資格を取得したり、新たな天地を求めて転勤することも多いとのことであった。したがって、学校によって雰囲気さがらりと変わり、いわゆる校風が前面に出てくることが多く、それがむしろ清々しい感じであった。

それにしても、子どもたちがお喋りに興じながら三々五々分団登校することのできるわが国は、やはり平和である。

（訓練スタッフ・東海女子大学教授）

1996年度 事業報告

開局11周年目に当りましたこの年度も、愛知いのちの電話協会の電話相談活動に、かわらぬご支援を賜ります。賛助会員、賛助法人並びに寄付者の皆さまに心よりの感謝を申し上げます。又、一年を通じて休みなく奉仕を続けて頂きました相談員の方々の労苦にあらためて敬意と感謝を申しあげます。ここに1996年度の事業の概略を報告させていただきます。

理事会報告

1995年に迎えました開局10周年を意義深いものとするために、相談事業の一層の充実をはかるとともに、地域社会への浸透を願って一連の記念事業を計画いたしました。そして1995年度には、記念式の開催、記念誌の刊行等、何回かの大きな盛り上りを経験いたしました。

1996年度は10周年記念事業の掉尾を飾って「いのちの電話全国研修会」を名古屋に於て開催することが出来ました。11月14日～16日、名古屋国際会議場に全国各センターから513名の参加者を迎えて盛大に、内容豊かな研修会を実施することが出来ました。前年度より、協会の総力をあげて準備しましたエネルギーが、自らの日常活動に新たな活力と充実をもたらし、又、他のセンターの明日に向っての飛躍にお役に立ち得たものと感謝いたしております。

相談員養成講座は、この年度第10期を募集いたしましたところ、50名の募集定員に対しまして、145名の応募がありました。急遽実施計画を修正して、約100名の受講生を受け入れ、目下養成講座が進行中であります。「いのちの電話」の実績に対する評価や世間の関心のたかまりに応える責務を痛感させられております。

相談電話受信件数は、年間総計12,289件開局以来の総受信件数は、151,215件（97年3月末）に達しました。いじめの問題や児童虐待への憂慮等もあって、いのちの電話へ社会の関心や期待は益々深まっていくことが感じられます。

7月には吉田徳子さんのご好意により、愛知芸術文化センターコンサートホールに於て「いのちの電話」支援のパイプオルガン演奏会を開いて頂きました。また名古屋中央教会を会場に、若手演奏家によるギターのチャリティコンサートも好評を博することが出来ました。10周年を記念した春秋のフリーマーケットも盛會裡に終ることが出来、豊かな盛り上りを経験することが出来ました。

10周年を記念して、意図したいま一つの大きな願いは、この機会に、当法人の基本財産基金の増加をはかることでした。1995年7月から1996年6月までに10周年記念基金寄付として、寄せられました寄付金は、個人寄付合計 520,350円、法人寄付金合計115社 21,129,430円となり、受取利息を含めた総計21,774,541円となりました。1996年度末決算として、24,514,333円を基金に組入れることが出来ました。これによりまして当法人の基本財産基金は現在60,348,409円となりました。感謝をもって報告させていただきます。

きびしい経済環境の中にもかかわらず、資金の面に、かわらぬご支援をお寄せ頂きました皆さまに、重ねて厚く御礼申し上げます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

理事長 相馬信夫

理事 豊田寿子、笠原 嘉、長岡利貞、西沢信正、水谷 颯、木本精之助

監事 内河恵一、小山 勇

評議員 笠原 嘉、川原 恵、木本精之助、豊田寿子、西沢信正、長岡利貞、向田正俊、鈴木郁雄、

岡部快圓、水谷 颯、渡辺宜親、浜下訓子、安藤和彦、相馬信夫

常務理事 木本精之助

総務委員会報告

今年度は10周年記念事業の2年目にあたり、その最大で最後の事業が全国大会であったわけだが、それに先立って前年度からコンサートやフリーマーケット、記念誌編纂などを行ってきた。これらの取組みは西澤信正氏を中心にした実行委員会を中心に進められてきた。そして以前はこれらの行事は総務委員会が担当してきたいきさつもあり、この2年間は両委員会がほとんど合同で開かれ、実務を担当してきた。

こうした体験をふりかえって、はて総務委員会固有の仕事とは何だったのだろうと考えてしまった。結論から言えば、この状態こそわがいのちの電話の成長のあかしではなかろうか。

全国大会の成功は、まさしく愛知の力が全国に認められたことであり、また県内でも、電話相談ネットワークをはじめ各ボランティアとの交流、さらに岐阜いのちの電話開設の応援等発展のあかしである。

12年前の開設当時をふり返ってみると、総務委員会（運営委員会）は総てにかかわってきた。今チャリティーコンサートは向田正俊氏等財務も担当して下さっている。会員拡大は常務理事木本精之助氏の個人的努力に負うところが多い。

以前は相談員の親睦福利のためにクリスマスパーティーやお花見を総務委員会がお膳立てをしたが、今や相談員自身が能動的に企画し盛大になってきた。活動が多様に分化してきたあらわれである。

ただし、組織が大きくなり、活動が多様化する程組織的矛盾が顕在化するの当然であり、発展の指標でさえある相談員どうし、訓練委員や事務局との意思疎通は今後の課題であり、全国大会の「引き継ぐバトン」もそんな含みがあった。

12年前の運営委員会でも“担当者が埋まらない。お金が集まらない”と悩みが語られている。この悩みも「バトン」として受つがれてきた。ただし「24時間の実現」という10年来の課題は理事会・総務委員会の仕事であり、これを1歩も進めることが出来ないまま引きつがれてきたことは大きな反省である。

（総務委員長 水谷 鏡）

訓練委員会報告

☆本年度で特記すべきことは、第17回いのちの電話全国研修会名古屋大会を無事終えることができたことである。この記念すべき大会に全員が参加すると、所定の養成講座と継続研修をこれとどう並行・調和させるかが大きな課題であった。大会参加は普段の継続研修では得られない成果があるという確信のもとに、大会準備の各部会を継続研修の単位とすること、大会をはさんで自由参加形式の研修会をもつことにした。結果的にみるとこれは成功であった。多少慌ただしかったが、これらの活動を通じて相談員のなみなみならぬ底力を見ることができた。十年という歴史がそうさせているのだろうか。もちろん養成中の9期の人たちへの配慮を忘れなかった。2グループにわけ、電話で直面する難題について丁寧な入門的な研修を実施した。

★委員会の課題のひとつは、この大会の理念や今後の電話相談の方向を模索することであった。受話器からだけの話題は視野狭窄をひきおこしやすい。そこでこの大会では電話を広く社会的な視点からとらえようと考え、あえて電話相談関係者以外の論者をお招きした。とくにシンポジウムではテーマを『電話は「気づき」より「依存」を深めてしまうかも知れない』を掲げた。はたせるかな、ひごろからいわゆる“Problem caller”に悩む各地の相談員に、創造的な刺激を与えることになった。名古屋で新しい情報が発信できたことをひそかに誇りとしている。詳しくは近日刊行予定の報告書をご覧ください。

☆この大会の熱気の影響というべきか、継続研修の在り方についても、今までにない積極的な意見が交わされた。形式や字面の上では格別目新しくはないかもしれないが、このプログラムに込められている願いが多く相談員に共有されることを望みたい。これからの新しい十年の発展になるように…。

（訓練委員長 長岡利貞）

財務委員会報告

1996年度の収支をご報告申し上げます。

当年度は、当協会が「いのちの電話全国研修会」の開催を主管いたしました。このことが、通常会計に負担を及ぼすことがないよう、大口の助成金、支援金をお願い致し、ご支援を受けることが出来ました。又、前年度より募集しました10周年記念基金寄付金を加えて、この年度2451万円を基金に組み入れることが出来ました。

支出につきましては、旅費交通費、通信費、

印刷費など努めて節約と工夫を致しまして、あらゆる支出を抑えることとしました。

コンサートを2回開催しましたが市民のご協力をいただき、フリーマーケット収益と併せて、165万円をいただきましたことをご報告申し上げます、併せてお礼申し上げます。

なお、当協会の基金は、60,348,409円となりました。

97年度予算としましては、4月より消費税の

1996年度収支計算書

(単位 円)

借 方 (支 出 の 部)		貸 方 (収 入 の 部)	
科 目	1995年度決算額	科 目	1995年度決算額
事業費支出	15,459,419	事業収入	39,116,257
教育・訓練費	2,464,396	助成金	500,000
広報費	611,260	共同募金配分金	700,000
調査・研究費	48,400	会費(法人)	5,245,000
渉外費	17,410	会費(個人)	300,000
特別事業費	522,892	賛助会費(A)	1,470,000
職員給与・賞与	5,660,000	賛助会費(B)	720,000
福利厚生費	78,076	賛助会費(C)	414,000
退職引当金	600,000	相談員の会費	120,000
旅費・交通費	779,390	寄付金(個人)	2,988,129
通信費	327,246	寄付金(団体)	1,234,250
電話料	254,509	年末募金	1,168,000
印刷費	250,320	特別事業収入	1,650,067
事務用品費	6,144	講座受講料	2,187,000
会議費	18,473	基金募金収入	20,419,811
郵便振替負担料	35,540	事業外収入	180,259
支払手数料	10,992	受取利息	150,405
連盟負担金	288,000	雑収入	29,854
諸会費	327,700		
共益費	1,440,000		
水道光熱費	960,000		
備品・消耗品費	582,307		
営繕費	55,300		
租税公課	45,398		
拠出金	41,731		
雑費	33,935		
事業外支出			
基本繰入	24,514,333	前期繰越剰余金	2,411,197
総計	39,973,752		
当期繰越金	1,733,961		
合 計	41,707,713	合 計	41,707,713

引上げ、公共投資の修正など景気の動向を懸念する見方があります。各企業もリストらを推進する動きも出ていることから、個人、企業よりのご支援を多く期待し難い状況かと思われま。然しながら、国民の福祉活動については高まってきており、いのちの電話の活動について関心が高まってきております。

今年度より行政面では、愛知県より名古屋市の所管に変わることになりました。当協会では基金1億円達成を要望されております。行政から

の一層のご支援をお願いしてゆきたいと思っております。

相談員の増加と充実も引き続き進められていますので、一人でも会員の増加とご支援をお願いし、基金増加にご理解とご支援をお願い致します。

(財務委員長 向田正俊)

1997年度予算

(単位 円)

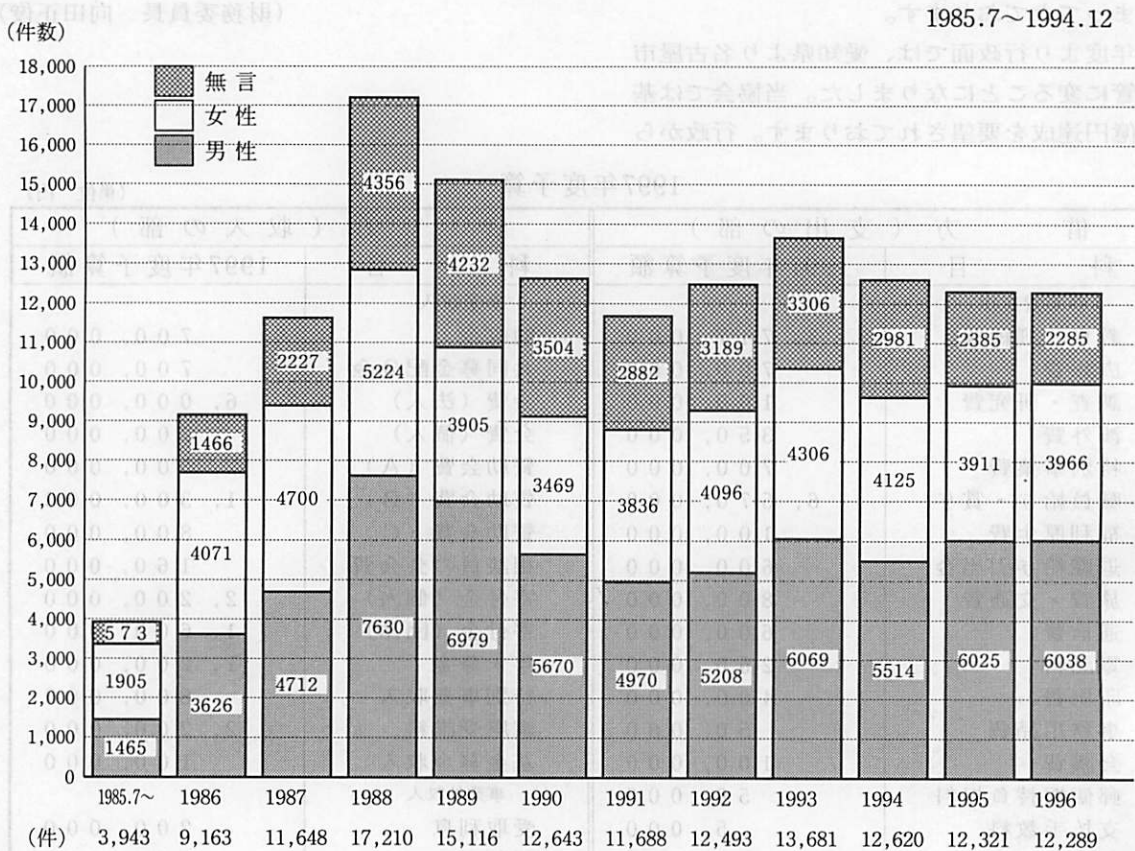
借 方 (支 出 の 部)		貸 方 (収 入 の 部)	
科 目	1997年度予算額	科 目	1997年度予算額
事業費支出		事業収入	
教育・訓練費	3,717,000	助成金	700,000
広報費	700,000	共同募金配分金	700,000
調査・研究費	100,000	会費(法人)	6,000,000
渉外費	350,000	会費(個人)	200,000
特別事業費	700,000	賛助会費(A)	2,500,000
職員給与・賞与	6,570,000	賛助会費(B)	1,300,000
福利厚生費	100,000	賛助会費(C)	800,000
退職給与引当金	600,000	相談員の会費	160,000
旅費・交通費	800,000	寄付金(個人)	2,200,000
通信費	600,000	寄付金(団体)	1,600,000
電話料	250,000	年末募金	1,200,000
印刷費	400,000	特別事業収入	800,000
事務用品費	50,000	講座受講料	2,200,000
会議費	100,000	基金募金収入	100,000
郵便振替負担料	50,000	事業外収入	
支払手数料	5,000	受取利息	200,000
連盟負担金	290,000	雑収入	150,000
諸会費	20,000		
共益費	1,440,000		
水道光熱費	960,000		
備品・消耗品費	200,000		
営繕費	100,000		
租税公課	50,000		
拠出金	100,000		
保険料	20,000		
雑費	100,000		
基金繰入	2,438,000	小計	20,810,000
		前期繰越剰余金	0
合 計	20,810,000	合 計	20,810,000

グラフで見る名古屋いのちの☎

○12年間の受信件数の推移 (1985年7月～1996年12月)

1985年からの総受信数は139,549件で、相談員との会話がなかった無言電話33,386件をのぞくと相談電話の受信数は106,163件となります。(1996年12月31日現在)

1996年は1日あたり27.4件の相談電話を受信しています。



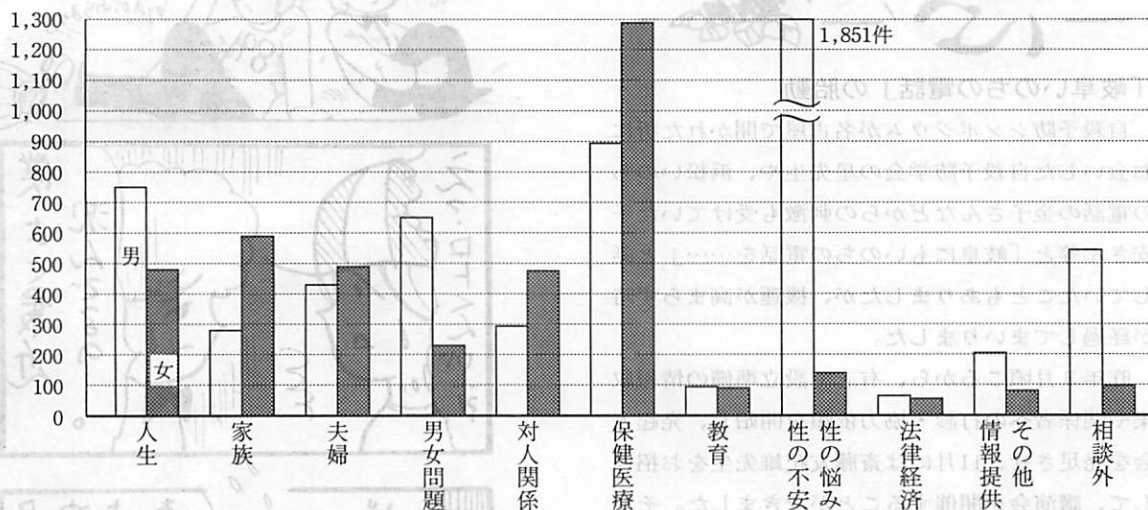
電話相談と匿名

いのちの電話相談の利点として、①いつでもどこからでも(即時性・広域性)②名前をのらずに(匿名性)がある。最近問題となっていることは、NTTが98年の当初に全国的に始めようとしている「発信電話番号表示サービス」である。このサービスは、かかってきた電話番号が受け手にはわかるシステムであり、これまでの電話相談の枠組みの基本を大きく変えるできごとになりそうである。このシステムが始まると電話相談機関はたとえ「発信電話番号表示サービス」を利用していなくても、利用者からは常に疑われ、利用者の不安も増大することが懸念される。

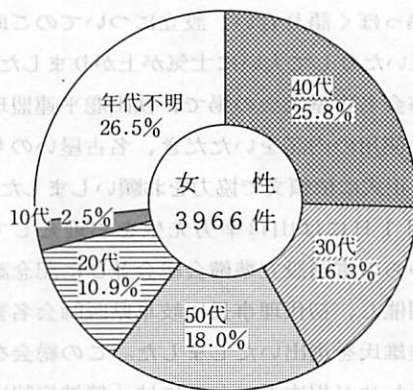
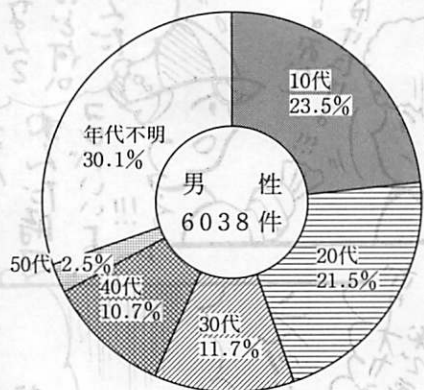
もちろん、いのちの電話は利用者の電話番号を知る必要性は一切ないのだが、利用者の不安に応える名案は今のところないのである。

○相談内容男女別の相談件数

(件数) □ 男性 6,038件 ■ 女性 3,966件 総件数 10,004件 1996.1~12

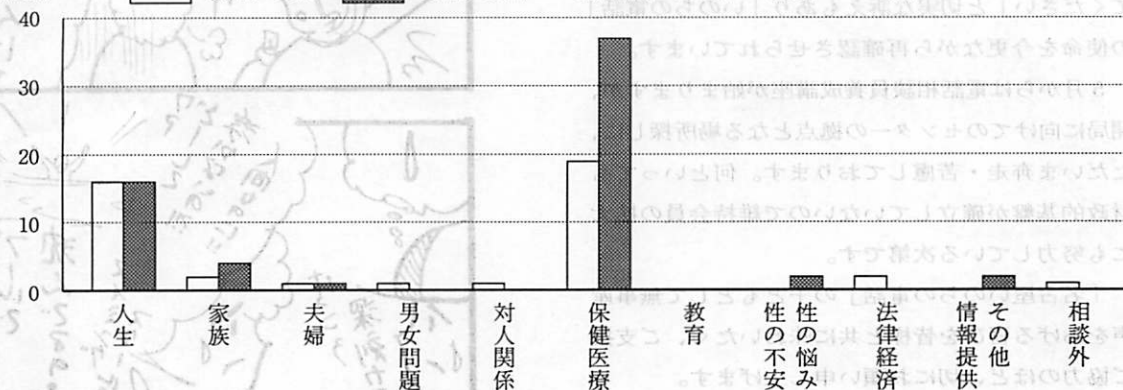


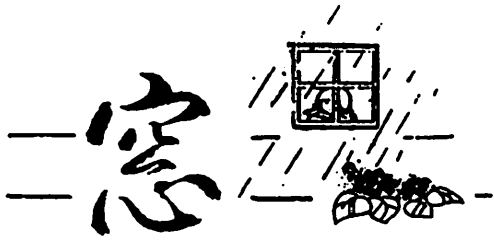
○男女別・年代別の相談件数



○自殺指向電話の相談内容男女別件数 (1996.1~12)

(件数) □ 男性 43件 ■ 女性 62件 総件数 105件 (全体の1.0%)





「岐阜いのちの電話」の胎動

自殺予防シンポジウムが名古屋で開かれた折にお会いした自殺予防学会の星先生や、浜松いのちの電話の金子さんなどからの刺激も受けていた子安さん等と「岐阜にもいのちの電話を……」と話していたこともありましたが、機運が高まらず時が経過してまいりました。

昨年3月頃ころから、有志で設立準備の情報収集や関係者への打診・協力依頼を開始し、発起人会を発足させ、11月には斎藤友紀雄先生をお招きして、講演会を開催することができました。そして講演会後の「斎藤友紀雄先生を囲む会」では夜遅くまで熱っぽく語り合い、設立についてのご助言もいただいたりして大いに士気が上がりました。

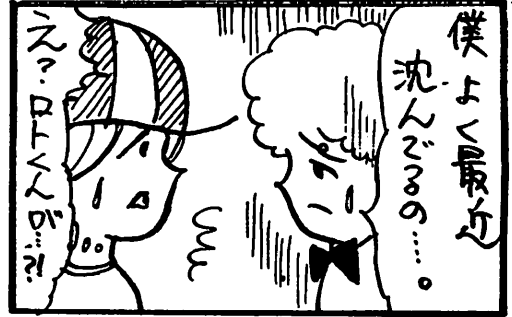
全国研修会名古屋大会の場で、秋山聡平連盟理事長に名称使用の内諾をいただき、名古屋いのちの電話へも正式に依頼文で協力をお願いしました。

本年3月1日には山口幸男先生をお迎えして「岐阜いのちの電話設立準備会総会並びに記念講演会」を開催し、初代理事長に岐阜県医師会名誉会長河合達雄氏を選出いたしました。この総会を機に問い合わせが相次ぎ、なかには「精神病院に通院しているのですが心の支えが欲しい。夜になるとたまらなく寂しいのです。早く電話を開設してください」と切実な訴えもあり「いのちの電話」の使命を今更ながら再確認させられています。

5月からは電話相談員養成講座が始まりますが、開局に向けてのセンターの拠点となる場所探しに、ただいま奔走・苦慮しております。何といたっても財政的基盤が確立していないので維持会員の拡大にも努力している次第です。

「名古屋いのちの電話」の子どもとして無事産声をあげる喜びを皆様と共に味わいたく、ご支援ご協力のほど、切にお願い申し上げます。

(Y・T)



ご援助ありがとうございます

1997年1月1日より4月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に
 ご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 理事長 相馬 信夫
 財務委員会

賛助会員A

佐藤 あさ子	横地 欣也	奇木 恵子	木本 靖之助	平岡 義和	前田 豊子
鳥井 寛	田上文蔵	福田 昌男	八木 武志	長岡 利貞	武下 潤子

日本キリスト教団金城教会福祉社会委員会 名古屋学院大学宗教部

賛助会員B

西村 稜	粕谷 靖彦	大塚 博子	グラバア 俊子	布村 明二	足立 文彦
島田 吉枝	須藤 よし子	兼田 智彦	勝沼 功	斉藤 延枝	野田 勝子
一ノ瀬 文枝	宮内 英夫	溝口 興治	榎戸 佳子		

賛助会員C

嶋 昭江	鳥居 平和	大塚 正道	平野 昌子	浅野 稔	中井 加代子
相馬 康人	太田 美恵	能登 みい子	石川 とみ子	中川 晋介	

個人会員

長岡 利貞

寄付金

佐藤 あさ子	野口 博之	中村 三郎	三澤 靖子	水谷 巍	内川 正邦
中川 鋪子	水野 愛子	内村 綾子	矢満田 篤二	水野 信義	林 たか枝
菅原 美智子	兼田 智彦	小野 孝児	下出 重雄	見木 靖美	浜本 孝子
野村 純一	長岡 利貞	森田 浩子			

日本基督教団名古屋中央教会 金沢聖霊総合病院 カトリック東山教会 カトリック半田教会 日本基督教団鳴海教会
 カトリック高蔵寺ニュータウン教会 日本基督教団愛知教会婦人会 日本基督教団金城教会福祉社会委員会
 日本基督教団名古屋北教会社会奉仕委員会 栄冠幼稚園

クリスマス歳末募金

神戸 一子	松田 一路	鳥居 平和	高須 速夫	竹内 哲子	平野 昌子
柳原 佳枝	西野 友英・三緒子				

日本基督教団岡崎教会 聖マリアの無原罪の修道会 日本基督教団豊山教会 日本基督教団中京教会 ルーテル希望教会
 日本基督教団名古屋教会 日本基督教団名古屋中央教会 カトリック南山教会 日本基督教団南山教会婦人会 金城学院
 日本基督教団南山教会 日本基督教団名古屋桜山教会 名古屋YWCA 日本基督教団愛知守山教会 名古屋聖ステパノ教会
 日本基督教団天白教会 カトリック多治見教会 名古屋YMCA 日本基督教団東海教会

名古屋神召キリスト教会内村徹母耳

賛助寄付

豊田紡織(株) フルエンゲ(株)

助成金

中日新聞社会事業団 東海テレビ福祉文化事業団

点滴

平成9年4月、ここ名古屋で30回目の結婚記念日を迎えました。30年前東京で始まった新しい生活。5年後関西へ転勤、そして又東京へと子供達を連れて往ったり来たり。その間二人の息子は独立し親元を離れました。残り少なくなったサラリーマン生活の中で、思いがけず3年前、いつも通過点だった名古屋に住むことになりました。子供達の転校の煩わしさのない分、旅行気分での新しい土地での生活が始まりました。本を片手に周辺の史跡を巡り、焼物の里で本物に出会い、ちょっと足をのぼして木曽路を歩き、友人を招いて長良川の鵜飼い見物。そして残念ながらその色は見る事は出来ませんでしたが、散り際に淡墨色に変わるといふ、千年咲き続けている満開の淡墨桜、等々沢山の思い出を作ることが出来ました。そして何よりも転入者を心よく引き受けて下さる、いのちの電話の関係者の方々の広く大きな心に触れさせていただきました。勉強不足、力不足から、聴く事のむずかしさを何度となく痛感し、その度に落ち込み、その度に仲間に助けられ、細々ながら続けることが出来ました。お陰様で昨年の全国大会のお手伝いも微力ながらさせていただきました、とても良い勉強になりました。ここ名古屋にも大勢の良い友人が出来、これからは通過点でなく、いつでもふらっと途中下車出来る場所として、私の心の中の財産が増えたこととなります。そして皆様からいただいた沢山の友情はスイート・カーティ・ダイヤモンドに勝るすばらしい贈り物だと確信しています。この贈り物を一生大切にしていきたいと思っております。(H. A)

10周年記念基金

伊藤 英資郎 足立 憲吾	西沢 信正 高木 康秀	岡安 正宏 長岡 利貞	服部 みやこ
名古屋共栄証券株式会社	株式会社エクシング	株式会社ミリオンカードサービス	岡谷鋼機株式会社
測定株式会社	ブラザー工業株式会社	タキヒョウ株式会社	日本電信電話株式会社東海支社
アイカ工業株式会社	株式会社サンゲツ	トヨタ自動車株式会社	新日本製鐵株式会社名古屋製鐵所
日本電話施設株式会社	名古屋テレビ放送株式会社	大同メタル工業株式会社	株式会社ボスカンパニー
中部鋼板株式会社	株式会社松坂屋	東海染工株式会社	中京テレビ放送株式会社
テレビ愛知株式会社	タイハウコーポレーション株式会社	大島造園土木株式会社	東海テレビ放送株式会社
株式会社鶴屋	豊田総建株式会社	株式会社オチアイネクス	株式会社高木製作所
川北電気工業株式会社	株式会社杉浦製作所	株式会社トヨタレンタリース	株式会社竹中工務店名古屋支店
山下機械株式会社	三井屋工業株式会社	万能工業株式会社	株式会社タケヒロ
理研産業株式会社	大橋鉄工株式会社	豊和工業株式会社	清水建設株式会社
東朋テクノロジー株式会社	矢作建設工業株式会社	東栄株式会社	セントラルリース株式会社
名古屋鉄道株式会社	株式会社中外	武田機工株式会社	三和化学研究所
株式会社スズケン	株式会社東海銀行	中部日本放送株式会社	東邦ガス株式会社
杉山工業株式会社	カトリック名古屋教会	株式会社アラクス	株式会社高津製作所
大林組名古屋支店	愛知株式会社	豊田合成株式会社	岡地株式会社
三協アルミニウム株式会社	中部電力株式会社	名証正会員協会	株式会社東郷製作所
豊田通商株式会社	株式会社中葉	トヨタビスタ東名古屋	東陽倉庫株式会社
トヨタ車体株式会社	株式会社豊田自動織機製作所	日本電装株式会社	猪村工業株式会社
セキセイ株式会社	フジトランスコーポレーション	愛知電子株式会社	萩原電気株式会社
愛三工業株式会社	トヨタ工機株式会社	日動火災海上保険株式会社	駿島製パン株式会社
株式会社芝岡製作所	アイシン精機株式会社	中央発条株式会社	大成株式会社
株式会社東海通信機材サービス	日本ガイシ株式会社	ナゴヤデンシコウキ	糸重株式会社
タカラ企画株式会社	愛知製鋼株式会社	西川印刷株式会社	エイデンサカキヤ
株式会社三秀プレジジョン	株式会社オティックス	尾張精機株式会社	株式会社宵雲クラウン
株式会社伊藤工務店	アラコ株式会社	興和株式会社	愛知スズキ販売株式会社
名古屋トヨペット株式会社	株式会社三五	新東工業株式会社	株式会社ワーロン
天野製菓株式会社	カトリック南山教会	カトリック安城教会	愛知トヨタ自動車株式会社
盛田株式会社	日本特殊陶業株式会社	東海旅客鉄道株式会社	
宝生院大須観音	リンナイ株式会社	中日新聞株式会社	

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 相馬信夫
 口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029
 郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせは… 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 名古屋いのちの電話
 事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1997年初夏

名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257

1997年6月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 相馬 信夫

相談電話 ☎ 052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会